



## 【涙の祈りを尊ばれる神様】

聖書:列王記第二20章1-6節/暗唱聖句:ヘブル人への手紙 5章7節

説教者:鄭南哲牧師

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！寒くなりました。一週間も皆お元気でしたか。残りの11月と始まる今年最後の12月中にもさらなる神の平安と祝福がみなさんの上、ご家族の上に豊かに注がれますように心からお祈り申し上げます！

### <1. クリスチャンも挫折したり、絶望する時がある？>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！イエスを信じているクリスチャンでも挫折したり、絶望に置かれると思いますか。とっとも立派な信仰をもっているクリスチャンでも危機に直面し、疲れ果てて、すべてをあきらめたい、さらに自分のいのちさえ投げ捨てたくなる場まで至ると思いますか。今年もここまでこのような苦しみや痛み、疲れを経験された方々はいないのでしょうか。私は人生の中、私たちクリスチャンであってもそのような時を直面する時がいくらでもあると思っています。

素晴らしい信仰の人だと言われたジョン・ジョエートという人の自伝(じでん)にはこのような告白が記録されています。“みなさんは私の人生には起伏なんか無いと思われたかも知れませんが、みなさんは私がいつも喜びを失わず、勝利の日々をすごし、ずっと成熟への道を前向きに歩んで行くのだと思われたかも知れませんが、それはとんでもない話です。時々私はものすごく疲れ果てている自分を見ました。心の奥底(おくそこ)からみだれている自分を見て、絶望と無気力な状態に陥ったのか教え切れません！”

キリストの教会歴史上とっともすぐれた牧師であり、説教師だと呼ばれていたイギリスのチャールズ・スポルジョン先生は説教の中でこのような告白をしました。“私は時々深い絶望と恐れの中におかれる場合があります。みなさんだけはこのような極限状態(きょくげんじょうたい)におかれてほしくありません。”

おどろきますが、使徒パウロもほぼ似たような告白をしています。第二コリント人へ手紙1章8節をご覧ください。

「兄弟たち。アジアで起こった私たちの苦難について、あなたがたに知らずにいてほしくありません。私たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、生きる望みさえ失うほどでした。」

ここで使徒パウロが使った(苦しみ)という単語は圧迫がかけられて押さえつけられている状態を意味します。

9節では見てみましょう。「**実際、私たちは死刑の宣告(死を覚悟)を受けた思いでした**」つまり、人生がこれで終わってしまったと思った告白でしょう。旅人のような人生の歩み途中、日々の生活の中で我らも、無気力になり、疲れ果ててしまう時があるでしょう。

### <2. 地上に来られた神の御子イエスキリストも涙を流された！>

疲れ果てて、自分の力ではどうしようもできなくて苦しい時、人々は泣きます。悲しくて泣き、つらくて泣き、苦しくて泣き、さびしくて泣きます。実際、我々のイエス様もこの地にいらっしやった時、苦しみ、疲れ、悲しみの故に、泣いたときがありました。「**イエスは涙を流された。(ヨハネの福音書11:35)**」

ヘブル人への手紙5章7節によると、「**キリストは、肉体をもって生きている間(人としてこの世におられたとき)、自分を死から救い出すことができる方に向かって、大きな叫び声と涙とをもって祈りと願いをささげ、そしてその敬虔のゆえに聞き入れられました。**」と書かれています。

イエス様はこの地にいらっしやる時祈るたびに苦しみもだえて叫びました。イエス様は神様に嘆きと涙と願いを申しました。ですから、嘆きと涙をもって願いを知らせる人々を慰めてくださることができます。そして、その祈りに答えることができます。イエス・キリストこそ、最悪の苦難、痛み、疲れ、病などすべてを経験されたお方です。

使徒パウロが経験した艱難とは比較すらできないほど艱難を受けられた方がいます。だれでしょうか。そうです。我々の救い主なるイエスキリストでした。旧約のイザヤ預言者は来られるイエス様の姿をこのように預言し記録されています。

「**彼(イエスキリスト)は蔑まれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で、病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。**」(イザヤ書53:3) “病”とは体の弱さによるあらゆる病気や苦しみを意味します。

だれよりも神の御子であられるイエスキリストがこの世に来られ、ほぼ毎日多くの群衆に囲まれ、いろんな人々と関わりました。時には人々から攻撃を受けたり、誤解されたり、無視されたり、蔑まれました。人に裏切られ、たたかれ、多くの悲しみと疲れをも経験されました。それだけではなく、イエス様はこの地上にいる間、家もなく、経済的に何も手に持たれず、苦しみました。だからこそ、イエス様は人々の悲しみや苦しみをよく知っておられる方です。

ですからイエス様は苦しみの中にいるみなさんの気持ちと状況をよく知っておられます。

ですからその方に慰められない人はだれもいません。イエスキリストは十字架の苦難を通して私たちの慰めと救い主となってくださいました。イエス様は泣いている人々を慰めてくださいます。涙を流している人の涙を拭いてくださるお方です

我々が信じる神様はこの地上の万物と人間を造られた創造主です。神様がこの涙を我々の目に置かれたのは神様がその涙がどんな意味であるかよくご存知であるという意味します。黙示録を黙想している間、本当に慰めとなった言葉があります。

**ヨハネの黙示録7章17節をみてください。「御座の中央におられる子羊が、彼らを牧し、いのちの水の泉に導かれる。また、神は彼らの目から涙をことごとく(すっきり)ぬぐい取ってくださる。」**

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

日々神様の慰めを實際受ける為にはどうすれば良いでしょうか。涙で終わらせない、慰めを越えて、また明日への希望と期待、勇気と前向きな力をどう頂けるでしょうか。どうすれば、涙でかなしみに無気力にならず、人生の疲れを正しく処理し、続けて大切な自分の人生の道のり、責任と使命を果たし続けることが出来るでしょうか。

聖書には神は信じる人々の涙をもって祈り、神に頼んで求め続けた時に、神はその涙の祈りを尊ばれ、神の慰めと共に具体的な神の助けと御業を体験された人の証しが聖書には多く書かれています。

願わくは、愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさんも、残りの11月と後残りの今年12月中渴いて来た涙をもって切なる祈りを神にして頂く時となりますように切にお祈り申し上げます！

### <3. 涙と共に切に祈る人を、尊ばれ答えて下さる神様>

#### ①切なる涙の祈りに答えて下さる神様

旧約聖書第一サムエル書には、1章には、だれにも言えない家庭の事情の為、耐えられない苦しみをかかえながら、激しく泣いていた女がいました。だれですか。そうです。みなさんがよくご存知のようにハンナという女が登場します。ハンナという女は子どもを生めませんでした。そういうわけで夫は別の女を家に連れ込み、その女から子どもが生まれると、さらに、その女から無視され、侮辱を受けました。その悔しさ、悲しみ、裏切られた心、自分の力ではどうしようも出来ないもどかしさの中、ハンナが選んだ方法は神様のみに出て行って祈り、涙で嘆くことしか出来ませんでした。

**「ハンナの心は痛んでいた。彼女は激しく泣いて、主に祈った。」(サムエル記第一1章10節)**

その結果はどうでしたか。神様は一人の女の涙の祈りをごらんになり、彼女を慰めて下さっただけでなく、実際人の思いと期待を超えてその祈りに聞き入れてくださいました。**その涙の祈りの後、ハンナからイスラエルの民族を導く偉大な指導者サムエルを生まれさせてくださいました。神様はハンナの涙を拭き去ってくださり、真の慰めを許して下さいました。神様は決して神を信じる民の涙の祈りを涙で終らせる方ではありません。かならず涙を拭き取ってくださり、その切なる涙の祈りを聞いてくださる方であることをみなさんも是非信じて下さい。**

#### ②病の苦痛のゆえ流した涙の祈りに答えて下さる神様

神様は信じる者の涙の祈りを通して、時には神様のご計画を返ってくださる場合もあります。今日の本文、列王記第二20章では、イスラエルでよく真面目に頑張っていました、突然死の病にかかってしまったヒゼキヤ王の話が書かれています。もう死を待つしかない病にかかって彼の生涯を終えようとしています。さらに、周りには、敵軍が襲って来ていました。その時、ヒゼキヤ王は神様の前に出て、切実に泣きながら祈ります。今日の本文である**列王記第二20章2-3節**です。

**「ヒゼキヤは顔を壁に向け、主に祈った。3「ああ、主よ、どうか思い出してください。私が真実と全き心をもって、あなたの御前に歩み、あなたの御目にかなうことを行なってきたことを。」ヒゼキヤは大声で泣いた。」**

すると神様からの応答は何ですか。**列王記第二20章5節**をご一緒に読んでみましょうか。「**引き返して、わたしの民の君主ヒゼキヤに告げよ。あなたの父ダビデの神、主はこう言われます。『わたしはあなたの祈りを聞いた。あなたの涙も見た。見よ。わたしはあなたを癒やす。あなたは三日目に主の宮に上る。』**

**神様はヒゼキヤの祈りを聞いた！その涙を見た！**と言われ、彼の人生の責任と使命を最後まで果たすことが出来るように、彼の命を15年も延長させてくださいました。体の弱さを覚え、疲れ、苦しんでいる時に、もちろん、薬や治療も受けながらも、是非みなさんの痛んでいるところを持って涙を持って神様に切に信じ、祈って見て下さいます。ヒゼキヤ王を慰め、彼を癒し、最善を成して下さった父なる神様は今も生きておられ、みなさんと涙と祈りを見ておられます！アーメン！

#### ③悔い改めの涙の祈りのゆえに赦しと回復を与えて下さる神様

旧約聖書の中、一番イスラエルで素晴らしい信仰を持って尊敬されていた王はだれかとすれば、当然ほとんどの方々がダビデ王を思い出すでしょう。しかし、いつも神様の御前で正しく、頑張っていたダビデ王でしたが、罪の誘惑に負けてしまい、罪を犯しそれを隠していた時、神様はナタン預言者を通して、彼の罪を叱り、指摘しました。その時、ダビデ王は自分の罪を否定せずに、神様の御前で涙となげきを持って寝床がぬれるほど二度もその罪をおかさないように、涙と共に真剣に悔い改める祈りをささげたとき、神様はそのダビデの涙をご覧になったと言われました。

**詩篇6篇6節**でダビデ王は「**私は嘆きで疲れ果て、夜ごとに、涙で寝床(ねどこ)を漂(ただよ)わせ、ふしどを大水で押し流**

します。」

**詩篇56篇8節**では「あなたは、私のさすらいを記しておられます。どうか私の涙を、あなたの皮袋にたくわえてください。それともあなたの書に記されていないのですか。」

このように涙の悔い改めの祈りによって人生が生まれ変わり、赦され、回復された人生を歩まれたダビデ王は、**詩篇51篇17節**で、同じ状況で苦しんでいる人々の為、このような神の慰めのメッセージを伝えて下さっています。

**「神へのいけにえは砕かれた霊。打たれ砕かれた心。神よ。あなたはそれをさげすまれません。」**

神様はだれに近づきますか。罪を犯したことにより、心が砕かれる者とともにおられ、たましいが砕かれた者を救われます。「**主は心の打ち砕かれた者の近くにおられ、霊の砕かれた者を救われる。(詩篇34篇18節)**」

フランスの偉大な新学者であったジャン・カルヴァン(John Calvin)先生は、「**偽りの説教者たちは、いつも神は赦して下さるお方であることだけ強調し、悔い改めについては沈黙します**」と指摘しました！

(False prophets speak only of God's freeness to forgive, and are profoundly silent about repentance. John Calvin)

今日多くのクリスチャンたちは成功のためなら、どんな不義や不正があっても神様も何でも目を閉じて下さるだけではなく、すべてをいつも赦して下さる神様であられると宣布します。自分たちの成功の為にいつも働いておられ、祝福して下さる神様に興奮して、そんな神様を愛しますと叫びます。

しかし、このように教え、信じている方々にとって、神様は公正と正義の姿はなく、ひたすら愛の神様しかありません。悔い改めのない赦しは偽りの福音であり、決して聖書的でもありません！聖書で教えている神のゆるしは、自分の罪に対し深い認識とその罪の結果が何であるか悟り、神様を恐れつつ心を変えて神に立ち返り、謙遜に自分の罪を正直に告白し、神の憐れみを求めることが真の悔い改めであります。

神の赦しは、罪に対する思い責任と罪責感から解放であり、罪の束縛と鎖りからの解放なので、二度とその罪のところに立とうとしないのです。

愛するみなさん!神様を信じ、祈りの中で、キリストの慰めを受けている人々は、罪に失敗してしまう時があっても、決してその人生は罪のゆえに滅ぼされません。アーメン！なぜなら、罪の中にいる我らをご覧になり、悲しんでおられる父なる神様の御心を我らは感じ、知っているからです。そして、涙の中で心から悔い改める人々に神様はまた新たな望みと力を豊かに注いで下さると信じます。罪を犯しても悔い改めの涙を流さない人は砂漠のサボテンのようになります。雨が降らないところで育てられるサボテンはとげしか残っていません。

我々は人生に光だけが照らされることを願いますが、時には雨も必要となるように、神様は我々に必要な涙をも与えてくださいます。最近、わたしとみなさんの祈りの中では涙の悔い改めの祈りはあるでしょうか。

#### **④愛のゆえ流す感謝の涙をぬぐい取り、祝福して下さる神様**

最後に、涙の中で一番美しい涙と言えば、感謝のゆえに流す涙と祈りではないかと思えます。聖書にも、多くそのような姿があらわれますが、特に、**ルカの福音書7章**によると、イエス様がシモンと言う人の家に招待されて行かれた時、一人の罪人の女が訪れます。名前すら記録されなく、ただ**罪人の女**だと記録されています。その当時、聖書的背景によるとおそらく、その女は体を売って生計を維持していた売春の女ではなかったかのように見られます。ところが、その女はイエス様に出会って神様の愛と赦しを経験します。だれからでも受けたことのない、神様の赦し、そして、その慰めを経験したのです。その愛に感謝して、イエス様にたずねて来て大切な香油を塗ります。香油を持ってきた女はまずイエス様の御足を感謝の涙でぬらし、口づけして、その御足に香油を塗りました。

**「そしてうしろからイエスの足もとに近寄り、泣きながらイエスの足を涙でぬらし始め、髪の毛でぬぐい、その足に口づけして香油を塗った。(ルカの福音書7:38)」**そのときイエス様はこの女がやったことを次のようにほめてくださいました。

**「それから彼女の方を向き、シモンに言われた。「この人を見ましたか。わたしがあなたの家に入って来たとき、あなたは足を洗う水をくれなかったが、彼女は涙でわたしの足をぬらし、自分の髪の毛でぬぐってくれました。(ルカの福音書7:44)」**

イエス様はこの女の涙を重んじ理解してくださいました。この女はひたすら涙を流します。感謝の涙でした！こんな諦めた自分を真に愛し、赦し、大事にして下さったイエス様に対する慰めと救いに対する感謝と感激の涙でした！

**愛する信仰の家族のみなさん！涙は神様の特別なプレゼントです。いのちとともに与えられたプレゼントです。この地に生まれて来るすべてのいのちあるものは泣く事からその人生が始まります！人の第一番目の言葉がまさに涙です。その次に学ぶのが笑うことであり、言葉なのです。**ですから、人の心と感情を表現する一番ふるい方法は涙です。ですから、涙を我慢しないで下さい。むしろそれを我慢してしまうとのちになっては心の病気になってしまいます。神の御前で、私たちは**[泣く者こそ、生かされる]**ものです。

あるクリスチャンの癌の専門医者が言われましたが、**涙は神様が人に与えて下さった自然治療剤であり、天然抗がん剤になるものだ**と強調されました。しかし、涙で終わらせないで下さい。そのみなさんの涙と共に祈りを持って父なる神様の

慰めを受けてください。人の前だけで終わらせないで、神様の御前で悲しみ、涙で祈る者に天からの慰めを与えて下さる今日の御言葉の約束を忘れないで下さい。その人たちは神様の慰めだけじゃなく、また日々生ける力を頂けます。逆転の恵みの人生として新たに進み行ける勇気と希望、全てに感謝と自足に満ちるように必ず主は答えて下さると信じます！

苦しい状況の中で、全てをおいぬけるもっと大切な力、それは“神の慰め”です！第二コリント1章4-7節の御言葉です。「4神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。それで私たちも、自分たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人たちをも慰めることができます。5私たちにキリストの苦難があふれているように、キリストによって私たちの慰めもあふれているからです。6私たちが苦しみにあうとすれば、それはあなたがたの慰めと救いのためです。私たちが慰めを受けるとすれば、それもあなたがたの慰めのためです。その慰めは、私たちが受けているのと同じ苦難に耐え抜く力を、あなたがたに与えてくれます。7私たちがあなたがたについて抱いている望みは揺るぎません。なぜなら、あなたがたが私たちと苦しみをともにしているように、慰めもともにしていることを、私たちは知っているからです。」

どうか、涙とともに、祈るみんなに神の豊かな慰めの御手をこの季節に体験できますように主イエスキリストの御名によって祝福します。今年もいよいよ迎えるアドベントの季節、涙とともに祈る心を我らに与え、日々祈らせてくださるよう祈ります。それによって日々天より神の豊かな慰めと今もなお生きておられる素晴らしい神の祈りの答えを日々体験出来ますように心からお祈り申し上げます。アーメン！”